

今週（11月22日から11月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初は地銀業態の調達が堅調で、無担保コールO/Nレートは先週対比で横ばいの▲0.038%となった。23日の祝日を挟み、週半ばから週後半にかけては、基準比率の低下による運用ニーズや、調達サイドの様子見姿勢により、レートは低下基調で推移した。週末の26日も3日積みの警戒感からレートは小幅低下となった。ターム物も調達意欲の減退から軟調な展開で、週を通してレートは低下基調で推移した。日銀当座預金残高は、週初から半ばまでは534～535兆円台で推移し、26日は新型コロナオペにより536兆円台に増加した。

25日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、69,228億円の貸付が行われた（期落ちは55,483億円）。残高は26日時点で804,993億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、▲0.105～▲0.095%出合いと先週比横ばいで推移した。先週から引き続き、ビッドサイドの資金運用姿勢が積極化したことで、レートは低位で安定した。22日から26日のT/Nは▲0.105～▲0.095%出合いと先週並み水準で推移した。

SCについては、2y418～430、5y140～149、10y349～364、20y174～178、30y70～72、40y13～14 などカレント銘柄を中心にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペの実施が見送られたものの、3M物の発行減が引き続き意識され、堅調な地合いが継続した。

24日に実施された6M物の入札は、強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

26日に実施された3M物の入札は、強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバーの動きも見られ、強含んで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は週を通して入札の件数は膨らみ、月末発行では幅広い業態において大型発行が見られ活況なマーケットとなった。例年11月下旬から12月にかけては、賞与や法人税の支払いに備えた資金調達が増加する傾向にあるが、今年は件数こそ膨らんだものの、週間発行・償還総額は共に約1.4兆円と概ね横ばいとなった。市場残高は25兆円まで積み上がり、26日時点でも同水準で推移することが見込まれる。発行レートは、新型コロナオペの根強い担保需要から投資家側による積極的な買いが見られ、希少銘柄かつ年末越え物のプライマリーのレートは超低水準で推移している。

25日にはCP等買入オペが5,000億円オファーで実施された。足許の発行残高が高水準で推移しているため応札額は膨らみ、多少のレート上昇が見込まれる中、入札結果は按分落札レート▲0.014%、平均落札レート▲0.011%といずれのレートも前回（按分▲0.015%・平均▲0.013%）比で上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/22 (月)	29,774.11	0.070	114.09	△ 0.038	△ 0.104	5,349,700
11/23 (火)						
11/24 (水)	29,302.66	0.080	115.19	△ 0.041	△ 0.105	5,344,700
11/25 (木)	29,499.28	0.080	115.37	△ 0.042	△ 0.101	5,354,400
11/26 (金)	28,751.62	0.070	114.92	△ 0.043	△ 0.100	5,359,400

来週（11月29日から12月3日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
11/29 (月)	パリ・ユーロプラス主催「Tokyo International Financial Forum 2021」において黒田総裁講演 10月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)		
11/30 (火)	10月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 10月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 10月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 30,000億円 12/1発行	9月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 11月の米CB消費者信頼感指数 11月のシカゴPM景況感指数 11月のユーロ圏消費者物価指数速報値
12/1 (水)	大分県金融経済懇談会において安達審議委員講演 7-9月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	交付税借入 11,000億円 12/10借入	11月のISM 製造業景況指数 10月の米建設支出 米ページブック
12/2 (木)	兵庫県金融経済懇談会において鈴木審議委員講演 11月のマネタリーベース(日銀 8:50) 11月の消費動向調査(内閣府 14:00) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 26,000億円 12/3発行	
12/3 (金)	12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 43,000億円 12/6発行	10月の米製造業新規受注・出荷・在庫 11月の米雇用統計 11月のISM 非製造業景況指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/29 (月)	▲ 700	4,800	4,100	CP買入 国債補完	▲ 400 100		▲ 300	3,800	TB3M発行▲43000償還50000
11/30 (火)	▲ 1,000	5,900	4,900	CP買入		5,000	5,000	9,900	交付税借入▲11000償還11000
12/1 (水)	▲ 1,000	▲ 33,000	▲ 34,000				0	▲ 34,000	2Y発行▲30000償還9700
12/2 (木)	▲ 1,000	▲ 78,000	▲ 79,000				0	▲ 79,000	税揚げ 年金保険料揚げ
12/3 (金)	▲ 2,000	▲ 23,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	10Y発行▲26000 交付税借入▲11000期日11000
週間合計	▲ 5,700	▲ 123,300	▲ 129,000	—	▲ 300	5,000	4,700	▲ 124,300	

11/29は日銀予想、11/30以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給要因で大きな揚げが見込まれるが、調達姿勢が慎重なこともあり、レートは横ばいないし若干の低下が見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは、オファーサイドの資金調達姿勢がやや強まる兆しも見られたことから、▲0.10～▲0.085%程度と若干の上昇が予想される。短期市場は、3日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、11月30日に実施が予想される短国買入オペのオファー額・実施の有無にも注目したい。CP市場は、特段のイベントはない。事業法人の賞与や法人税の支払いに備えた資金調達がどれだけ膨らむか動向が注目される。

主要なイベントは、海外では30日に11月のユーロ圏消費者物価指数の速報値、1日にページブック、3日に11月の米雇用統計が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。